

未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査の結果

概要

(1) 小学校の規模について

- ・ 小学校の1学級あたりの児童数は、「現状のままでよい」が56%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が43%である。

選択肢	回答数	割合
現状より少ない方がよい	576	43%
現状のままでよい	740	56%
現状より多い方がよい	13	1%
合計	1,329	100%

- ・ 「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由は、「児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われる」が554人で最も多く、次いで、「教室にゆとりができる」が317人、「一人ひとりが大切にされる」が297人である。

- ・ 望ましい学級数は、「1学年あたり2～3学級」が81%で最も高い。

選択肢	回答数	割合
1学年あたり1学級	7	1%
1学年あたり2～3学級	1,087	81%
1学年あたり4学級以上	234	18%
合計	1,328	100%

- ・ 「1学年あたり1学級」と答えられた方の理由は、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が72%で最も高い。

(2) 中学校の規模について

- ・1 学級あたりの生徒数について「現状のままでよい」が 61%で最も高く、次いで、「現状より少ない方がよい」が 37%である。

選択肢	回答数	割合
現状より少ない方がよい	495	37%
現状のままでよい	811	61%
現状より多い方がよい	20	2%
合計	1, 326	100%

- ・「現状より少ない方がよい」と答えられた方の理由は、「生徒一人ひとりに目が届き、きめ細かな指導が行われる」が 462 人で最も多い。
- ・望ましい学級数は、「1 学年あたり 2～3 学級」と「1 学年あたり 4 学級以上」がほぼ同数である。

選択肢	回答数	割合
1 学年あたり 1 学級	4	1%
1 学年あたり 2～3 学級	666	50%
1 学年あたり 4 学級以上	655	49%
合計	1, 325	100%

- ・「1 学年あたり 1 学級」または、「1 学年あたり 2～3 学級」と答えられた方の理由は、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細やかな教育ができる」が 59%で最も多い。

(3) 小学校の配置について

- ・ 小学校の通学時間は、「15 分未満」と「15 分以上 30 分未満」で 87%であり、通学時間の許容範囲は、「15 分未満」と「15 分以上 30 分未満」で 81%となっている。

【通学時間】

選択肢	回答数	割合
15 分未満	197	43%
15 分以上 30 分未満	202	44%
30 分以上 45 分未満	49	11%
45 分以上 60 分未満	3	1%
60 分以上	1	1%
合計	452	100%

【許容範囲】

選択肢	回答数	割合
15 分未満	216	16%
15 分以上 30 分未満	858	65%
30 分以上 45 分未満	228	17%
45 分以上 60 分未満	23	2%
60 分以上	1	0%
合計	1,326	100%

(4) 中学校の配置について

- ・ 中学校の通学時間は、「15 分未満」と「15 分以上 30 分未満」で 87%であり、通学時間の許容範囲は、「15 分未満」と「15 分以上 30 分未満」で 63%となっている。

【通学時間】

選択肢	回答数	割合
15 分未満	104	35%
15 分以上 30 分未満	157	52%
30 分以上 45 分未満	36	12%
45 分以上 60 分未満	2	1%
60 分以上	0	0%
合計	299	100%

【許容範囲】

選択肢	回答数	割合
15 分未満	104	8%
15 分以上 30 分未満	729	55%
30 分以上 45 分未満	400	30%
45 分以上 60 分未満	89	7%
60 分以上	4	0%
合計	1,326	100%

(5) 地域における拠点としての役割について

- ・ 「児童・生徒の放課後の居場所・活動場所」が 1,029 人で最も多く、次いで、「地域防災の拠点」が 703 人、「スポーツ活動の拠点」が 598 人である。

(6) 学校の適正な規模・配置について

- ・検討にあたり配慮すべき点は、「多様な考え方に触れる機会の確保」が35%で最も高く、次いで、「幼・保・小の連携、小・中連携の推進」が23%で、「放課後児童、小1の壁対策の推進」が22%である。

選択肢	回答数	割合
多くの児童・生徒、学年との交流	235	18%
多様な考え方に触れる機会の確保	463	35%
幼・保・小の連携、小・中連携の推進	305	23%
放課後児童、小1の壁対策の推進	287	22%
その他	25	2%
合計	1,315	100%

(7) 施設の老朽化対策の進め方について

- ・「現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える」が32%で最も高く、次いで、「将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える」が25%である。

選択肢	回答数	割合
現在の学校数を維持するために、多額の経費が必要であっても、全ての学校を建て替える	158	12%
現在の学校数・規模を前提に、当面、老朽化が著しい部分のみを改修する	167	13%
現在の学校数・規模を前提に、老朽化の度合いに応じて、順次改修を行いながら、将来的に建て替える	435	32%
現在の学校数を維持するが、将来の児童・生徒数を考慮し、規模を縮小したうえで、老朽化の度合いに応じて、必要な改修を行いながら、将来的にすべて建て替える	224	17%
将来の児童・生徒数をふまえ、学校の統廃合も視野に検討し、その検討結果に基づき、建て替える	327	25%
その他	14	1%
合計	1,325	100%

